

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1173000348		
法人名	株式会社ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・上福岡		
所在地	埼玉県ふじみ野市上福岡5-5-4		
自己評価作成日	平成28年10月13日	評価結果市町村受理日	平成29年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokennsaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケアシステムズ		
所在地	東京都千代田区一番町6-4-302		
訪問調査日	平成28年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

駅から徒歩5分の立地条件を活かし、利用者と一緒に駅前スーパーや公民館を日常的に利用しています。公民館内の図書館で本の貸し出しを受けたり、絵画や写真の展示を楽しんでいます。また、公民館の地下で開催されるコンサートや民謡踊りも練習を見学させてもらうなど地域との交流も盛んです。ご家族と共に「七夕祭り」を見学したり自治会の盆踊り大会にも参加しています。毎月1度の「お楽しみ昼食会」ではリクエストに応じ、近隣商店とも交流も深めつつ「食」を楽しんでいます。音楽ボランティアの受け入れも毎月実施し、音楽に触れあう時間も大切にしています。ホーム内でも個々のADLに合ったレクの提供をし、習字やちぎり絵、脳トレドリルや体操、懐メロの合唱など、盛り沢山な内容で生きがいと張り合いを感じつつ和気藹々とした笑顔あふれる楽しいホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内は明るく整頓されており、清掃が行き届いた気持ちの良い空間づくりがされている。各居室スペースの扉には、様々な柄のカフェカーテンが取り付けられてあり、廊下には利用者の写真や作品が掲示されている。共有スペースでは歌詞カードが配られ、懐かしの曲を利用者のみなさんが歌う元気な様子も見ることができた。地域の盆踊りにも積極的に参加するなど地域交流にも力を入れている。毎月、様々なボランティアが来てくれることも利用者の楽しみとなっている。利用者の馴染みの場所で居心地のよい空間作りを目指し、理念である「笑顔と思いやり」に沿ったサービスを提供しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が「笑顔と思いやり」の理念に基づき、理念を共有することで各自が心のこもった温かいケアに努めている。職員・利用者共に笑顔あふれる日々を過ごしている	事業所理念は何度かの見直しを行い、職員全員で考た「笑顔と思いやり」に決定した。理念のもと実践に取り組んでいる。職員会議でも共有を図り管理者は都度理念の声かけをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方からお花を頂いたり、掃除機の寄付を頂いた。散歩時には近隣の商店や住民の方々と挨拶を交わし、交流を図っている。地域の商店や床屋を利用している	地域の交流は盛んに行われていることが議事録からも確認できている。利用者はボランティアの演奏会に参加し、管理者は地域懇談会を開催し地域住民へ情報発信をしている。運営推進会議には自治会の参加も記録されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふじみ野市役所のロビーで開催されたアルツハイマー月間・パネル展に出展。地域の方々にグループホームを知って頂き、理解を深めてもらよう情報を発信した		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や市役所の高齢福祉課、保護課、社協、包括、民生委員、自治会、介護相談員など多数の参加を頂き、事業所の取組や実績を報告し、意見交換をしている	運営推進会議は定期的に行われている。家族の参加もあり行政や自治会関係者の出席も多く、意見交換が盛んに行われていることが記録されている。様々な情報を収集しサービスの向上に努めていることが伺える。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当宛てに毎月の利用状況を報告している。(入・退居や待機者数、要介護度)介護相談員との交流でサービスの取組を伝え、協力関係を築いている	管理者は定期的に市役所に訪問し、相談や報告などを通して担当行政と連携を図っている。外部の介護相談員の意見を取り入れることにも努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月の職員会議で資料を配布したり、研修に積極的に参加し「身体拘束をしない・させない」を常に意識して日々のケアに取り組んでいる	本部で開催される研修の他にも事業所独自に勉強会を行ったり、外部研修に参加したり、禁止となる具体的な行為の理解について、職員全員で学び、身体拘束のないケアを実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	埼玉県主催の高齢者虐待防止研修に毎年参加し、内容を会議等で伝達している。職員にはストレスを溜めないよう有休取得含む心身のリフレッシュを勧めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で権利擁護や成年後見人制度について学んでいる。成年後見人が付いている方の受け入れ実績があり、その際に関係者との話し合いの下、理解を深める事が出来た		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、項目毎にきちんと説明を行っており、入居後もご家族様からのご質問には随時お答えしている。料金の改定時には家族会で説明する機会を設けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口をホーム内に、お客様相談窓口を本社に設け対応している。要望・意見を取り入れ反映できるよう家族会や会議等で話し合いを行っている	家族会で出された意見のほかに、家族の面会時に意見や要望を聞く時間を設けている。面会時には椅子とテーブルを居室に運び、家族と利用者により話をして頂いている。意見や要望は職員全員に周知し、運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度開催している職員会議の場で、職員各自が自由に意見を出し合い、ケアや業務の向上について提案し、意見交換することでより良いケアに反映させている	職員会議のなかで意見交換をするほか、ホーム長は日頃からなるべく多くの職員に声をかけ、コミュニケーションを図り発言しやすいような環境作りを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の能力や特性を活かした役割や係りを任せている。職員各自がやりがいや向上心を持って働けるよう声掛けや職場の環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内の自己啓発研修や階級別研修が充実している。外部による研修にも積極的に参加している。職員が自ら参加したい研修を見つけるなど自己研磨に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の交流会に参加し、勉強会を行った。名刺の交換をし、ネットワークを構築した。また他施設を見学し、良い点を取り入れる等、サービスの質の向上に努めた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントで出来る限り本人の状態や状況を探り、不安無く早くホームの生活に馴染めるよう信頼関係を築く努力をし、それぞれに添ったケアに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調時に質問や要望等を聞き対応している。それ以外にも話をする機会を設け、出来るだけ家族の不安や困っている事に対し傾聴し、より良い関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居以外のサービスを必要とするケースでもそのサービスが利用できるよう、居宅支援事業所や地域包括支援センターを紹介し、実際にサービスの利用に繋がられた		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が他利用者の世話をしたり、日常の中での得意分野(裁縫や家事など)を発揮できるよう機会を設けることで、利用者同士の良い関係作りができています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に参加できる行事を実施したり、家族会や運営推進会議の中で家族の存在の大切さを伝えることで、共に支援ができるよう良い関係作りができています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩時には入居前から慣れ親しんでいた商店の店主と欠かさずに挨拶を交わしている。日頃利用していたスーパーでの買い物や理髪店を継続的に利用している	利用者の家族以外にも、知人や友人の面会も自由としている。手紙のやりとりをしたり、入所する前からの理容室に行ったり、馴染みのある人や場所の途切れないような支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性や個性に配慮した席の配置や見直しをしている。レクや音楽会等を通じて利用者全員が参加し、孤立せず何かを共に行う時間を大切にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した利用者の家族から年賀状を頂いたり、他施設に入居されている身内の方の認知症に関する相談を受けるなど、必要に応じて相談にのる等、支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩やレクを含め、生活全般において可能な限り本人の意向を尊重している。苦手な事もあるので無理強いせず、困難な場合は意向を伺いつつ支援を行っている	利用者の意思や体調の変化等を尊重し、ホームでの行事への参加は個別に対応している。意思表示の難しい方についても、日々のケアの中で少しずつ意向の把握に努めており職員会議で話し合い、周知に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族との会話の中から生活歴や生活習慣を把握している。近隣スーパーや商店での買い物に同行するなど馴染みの暮らしの継続を大切にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の大半を利用者と過ごし、その時々様子を記録に残し職員全員で情報を共有している。心身状態の変化等は個人申送りノートを活用し、状況の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医療関係者と連携を図り、医師・看護師からの指示やアドバイスを受け、介護計画書を作成している。家族会や面会時に状況を伝え、家族とも情報を共有している	ケアプラン見直しの1か月前には利用者や家族の意向を確認し、職員全員でカンファレンスを行っている。担当者会議においては、利用者や家族の意向を再度確認し、必要に応じて医療との連携も図りながら個別の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添ったケアを実践し、内容を生活記録に反映・記録している。また、状態の変化や会話を記録し、情報の共有やケアプランの見直しに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の希望に応じてシニアセラピーや医療マッサージを実施している。併設されているデイサービスの催時には声をかけてもらい、体操や歌等を楽しんでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に2回介護相談員の訪問がある。公民館内の図書館を定期的に利用している。介護支援ボランティアや音楽ボランティアとの交流を大切に、豊かな暮らしを支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療により、身体状況の把握や内服薬の調整をしている。診療内容について家族に情報提供し、必要に応じて専門的医療機関への受診をして頂いている	定期的に提携している内科、歯科の訪問診療を行っているほか、緊急時対応の往診もあり適切に医療機関との連携を図っている。かかりつけ医への通院時は、家族対応としているが必要に応じて職員が同行し説明を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携訪問看護師による週1回の訪問時、利用者様の健康状態や気付きについて看護師との連携ノートを活用し、情報を共有することで適切な対応をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報提供(既往歴や家族構成等)をし、退院時には病院から看護・介護に関する情報提供を受けている。また、医療連携室の相談員と連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の家族からホームでの看取りを希望された例があり、医療関係者と連携を図り、家族とも方針を共有した上で最後までチーム一丸となって支援を行った	ホームでは家族、医療、との連携のもとに昨年度看取りを経験している。家族には、契約時に事業所の方針を伝えているが、利用者の重度化に伴い必要とされる終末期に向けた支援について職員の理解と知識を深めるための勉強会や研修を行っていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや緊急連絡網を整備し、昼夜を問わず駆け付けられる体制を整えている。医療機関と連携し、初期対応の実戦力を身に付ける努力をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民や地域の防犯パトロールの方に参加頂き、定期的な避難訓練を行っている。消防隊員より自力で避難できない利用者の誘導についてレクチャーを受けている	地域交流会議の中で参加を呼びかけ、毎年多くの地域住民参加のもとで避難訓練を行っている。利用者が昼夜問わず避難できるように、夜間の訓練も行うなど災害対策において高い意識をもち実践していることが確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様が傷つくような軽はずみな言動を避け、入浴時や排泄時にはプライバシーに配慮した声掛けや対応をしている。脱衣所では更衣が見えない工夫もしている	利用者の意向を尊重し、言葉遣いなど日常的な支援の中で一人ひとりに合った対応を心がけている。本人や家族からの希望があれば同性介助にも対応している。脱衣室には、手作りのパーティション置き羞恥心への配慮も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に思いや希望を話せるような環境や雰囲気作りを工夫している。自己決定ができるよういくつかの選択肢を提供するなどの工夫もしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「散歩や図書館に行きたい、買い物にいきたい」など希望があった時に、掃除や入浴の時間をずらし外出を実現させるなど、なるべく利用者本位に物事を考え支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分に合わせて「着たい」と思う服を選んで頂いたり、化粧品や服を買いに行くなどお洒落を楽しんでいる。マニキュアの色も自分で選んでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食会では個々のリクエストに応じ、希望に沿った物を注文して提供している。おやつ作り等で一緒に台所に立ち調理を楽しんだり、後片付けを共に行い「食」を楽しんでいる	利用者との日頃の会話の中から好みの食べ物をリサーチし、手作りおやつの日メニューを決めている。月に1回のイベント食では、利用者に好きなものを召し上がって頂いている。また自立支援の一環として下膳の手伝いもしていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとに食事摂取量を記入している。水分も1回の提供毎に記録し、足りない方には味を変えた物の提供をくふうしている。必要に応じて栄養補助飲料も提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医や衛生士の指導を受け、必要に応じて声掛けや介助を行っている。往診記録を職員全員で回覧し、内容を把握した上で日々のケアを実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、排泄パターンを把握し誘導や介助を行う事で失敗の軽減に努めている。コールボタンの活用で車椅子利用者等の必要に応じたケアと支援を行っている	同性介助を基本とした支援を行っている。排泄の支援で問題のある利用者に関しては、カンファレンスを行い、フロア会議や申し送りをしながら、改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の動きを促すよう、毎日体操をしている。医療連携訪問看護師や往診医との連携で、便秘薬の処方や下剤の量の調整を行っている。排泄時に腹部のマッサージ等も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方が多いので、体調に考慮しつつゆっくり入浴を楽しめるよう支援している。入浴剤の香りや色も楽しんでいる。必要に応じてリフト対応もしている	職員は、職員会議等で利用者に入浴を楽しんでもらう工夫やアイデアを出し合っている。入浴剤の使用や季節ごとの「菖蒲湯」、「ゆず湯」などの変わり湯も毎年準備して、入浴を楽しんでもらえるような支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの入眠時間までテレビや読書を楽しんでいる。室温や湿度調整をし、安眠できるよう配慮している。不安訴え時は傾聴し、安眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を活用し、薬剤の変更時は個別の送りノートに記入し職員全員が把握できるよう努めている。服薬説明書を個別にファイルし閲覧できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクで作成した作品を廊下や居室に掲示し、張り合いを感じている。日々の生活の中で役割分担し、生きがいのある暮らしが送れるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族やボランティアの協力のもと、毎年地域の祭り見学に出かけている。買い物の希望がある際は、職員が付添い出かけている。家族と定期的に外出もされている	週3～4回は20分～30分程度の散歩をしている。雨の日以外は、多少曇りの日でも外気浴をすることで気分転換の機会にもなっている。公民館主催のイベントへも積極的に参加し、地域との交流にも役立てている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的な買い物や、おやつ購入時には職員が付添いし、見守りの上で本人がレジで金銭のやり取りができるよう支援している。可能な限りお釣りの計算もしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に好きな時に電話を掛けられるよう支援している。遠方の親戚と手紙のやり取りをしたり、年賀状のやり取りを楽しんでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる作品(折り紙・ちぎり絵・習字など)をレクで取り入れ、完成した作品を廊下に掲示している。また、季節に合った造花や生花、絵なども飾っている	広々とした明るい共有スペースになっており、職員が季節感を取り入れた飾りつけを行うなど、工夫された空間づくりがされていた。テーブル上で洗濯物をたたむ方や、新聞を折る方など思い思いに過ごしている様子やみなさんと集まり唱歌を歌う様子などが確認できた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	概ね食事の時間は決まっているが、食事以外の時間は好きな場所で過ごせるよう、椅子やソファを配置している。書棚の横には読書を楽しめるよう椅子を配置している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や手作りの装飾品の他、好きなタレントのポスターや車の写真を貼ったり、馴染みの家具(椅子や仏壇)を持ち込まれ思い思いに過ごしている	家族と職員が協力して、本人にも手伝ってもらいながら部屋のレイアウトや模様替えを行い居心地のよい空間づくりをしている。季節の衣替えの手伝いも本人に確認しながら支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには大きく貼紙したり居室入口には写真付きのネームプレートを掛ける等、迷わず行ける工夫をしている。廊下には物を置かず車椅子の自走の安全に配慮している		